

山本幸三内閣府特命担当大臣（地方創生、行政改革）との意見交換の概要（抜粋）

日時：平成28年11月17日（木）9時22分～10時08分

場所：（公社）日本獣医師会役員室

出席者：山本幸三大臣、近藤貴幸大臣秘書官

当方：藏内勇夫会長、北村直人政治連盟委員長、酒井健夫副会長、境専務

(山本) 誠に申し訳ないが、獣医師が不足している地域に限って獣医学部を新設することになった。財政的に大丈夫か、待ったをかけていたが、今治市が土地で36億円のほか積立金から50億円、愛媛県が25億円を負担し、残りは加計学園の負担となった。

先端のライフサイエンスに重点を置いて、創薬に役立てる。実験動物学分野の獣医師は不足しているのでこれに重点を置く。四国は、感染症に係る水際対策ができていなかったのので、新設することになった。

(北村) 日本獣医師会総会で決議している、それ以上でも以下でもない。日獣としては認めることはできない。特区による獣医学部新設には反対であり、これからも強く言い続ける。政連としても譲れない。

大臣自ら一団体に来ていただいたことはない。各団体の長を大臣室に呼んで、こうすると申し渡すのが普通。

しかし、今回の決定は、日獣が会員とともに積み上げてきたものと相当に開きがある。日獣と政連が「分かりました。」と言うことはできない。大臣から経緯を聞いたということである。

現在、既存大学の獣医学教育を世界水準に上げることに努力している。閣議決定された4条件、特に上記の3つについては重要であり、主張し続ける。これが政連委員長の見解である。

(中略)

(藏内) 今日はわざわざ大臣に来ていただいて有り難い。しかし、巡り合わせが悪かった。我々も何とか大臣になっていただきたいと思ってやってきたが、獣医学部新設を決断する役となられた。官邸ペースでやられたことではあるが、担当大臣としてきちんと説明して欲しいとお願いした。

我々は55の地方会の意見をまとめてやってきており、首をかけてやっている状況。大学を作ることに反対ではなく、獣医学教育を世界水準にしていけないと取り残されてしまう。地道に学部にして教育水準を上げる努力をしてきた。獣医師数については、国も含めて調査してきたが、数は足りている。今、大学を作ることは流れに逆行する。したがって、大学を作ることに賛成はできない。どうしても作るというのなら、国際水準を満たすものにしていただきたい。将来どうなるのか良く議論していただきたい。「特区でやれっ。」というのはいいが、その後業界がどうなるのか分析して欲しい。我々は、世界獣医師会、世界医師会、日本医師会等と組んで地道な努力を続けてきた。特区の先生方に一度はこのような努力を聞いていただきたい。

わざわざ来ていただいたことには敬意を表する。しかし、今、大学を新設することは余りにも流れと逆行する。したがって、大学新設には反対である。我々の考え方を取りまとめて文書にするので、特区の先生方にも読んでいただきたい。

以上